

界ノ賞讃ヲ博シ樞要不可缺ノ施設ト思考セラレ候間尙今後三ヶ年間
繼續校舍並校具無償使用方御許可相成度此段及御願候也

追テ右學園ハ其ノ教育上支障無之限リ貴校教育上必要ニ應ジ生徒
ノ教育實習機關トシテ提供可致候

尙御校ノ御都合ニヨリ許可御取消相候トモ異議申立間敷候

昭和十九年三月二十日

右 上野兒童音樂學園設立者

東京音樂學校同聲會長乘杉嘉壽印

東京音樂學校校長乘杉嘉壽殿

(手書き)

(「自昭和十八年度至同二十年度 國有財産關係 東京音樂學校會計課」)

音會四五號 裁決定3月25日 發送3月25日

昭和十九年三月二十日起案

建物ノ一部繼續使用許可ノ件

昭和十六年三月十九日付音會七八號ヲ以テ許可相成タル東京音樂學
校同聲會設立ニ係ル上野兒童音樂學園ニ於テ本校建物ノ一部無償使
用方ノ件ハ本月末日ヲ以テ使用期間滿了ト相成ヘキニ付テハ別紙使
用繼續願ノ通引續キ三年間使用方願出有之タルニ付從前ノ條件ヲ以
テ許可相成可然哉。

許可案

上野兒童音樂學園設立者

東京音樂學校同聲會長乘杉嘉壽

昭和十九年三月二十日付願出ニ係ル當校建物ノ一部無償使用ノ件從
前ノ條件ヲ以テ許可ス

年月日

學校長 (手書き)

(「自昭和十八年度至同二十年度 國有財産關係 東京音樂學校會計課」)

(四) 回想二篇

上野兒童音樂學園の思い出

花桐芳子⁽¹⁾

私は小学校四年の昭和八年に上野兒童音樂學園に入りました。週
に二回のピアノのレッスンはきびしいと思いますが、先生がしつ
かりレッスンをして下さる迫力に打たれ、子供ながら緊張しまし
た。

滅多にないことですが、たまにほめられたりすると、宝物でも頂
いたような喜びでした。しかし週二回の内、一回お休みしたりする
と筆で親が理由を書き、判を押して先生に出し、それに先生が判を
おして私の方に持たせて下さいました。

私の家は比較的近く、上野の山から下って四〇分位の所だったと
思いますので、たまに家の人に途中まで迎えに来てもらいました。
レッスンを思うようにできなくて滅入った時は、暗い気持ちで、家
に帰る途中に自動販売機(今日の自動販売機ほど大きくない小さな
ものでしたが)があつて5錢でチョコレートか森永の箱に入ったキ
ヤラメルを買い、それを舐めながら帰った思い出があります。

またお家が遠い方は、お母様が控え室で(その頃たしか石炭の
ストーブだったと思いますが)火にあたりながら、和やかにお話や
編み物をなさりながら待つていらしたと思います。今から見ます

と、何と心豊かな時代だと、とても懐かしい思いがします。

私の昔の思い出をたどってみますと、昭ノ宮様がお付きの方をお連れになって、私たちの唱歌をお聞き下さり、私たちも緊張しましたが、とてもうれしゅうございました。お年は定かではございませんが、たしか私たちよりも一年位若かったように思っております。

それから話が前後しますが、演奏会の何日か前に先生から当日はセーターのようなものは着ないでウールの布地で作り上げたもので、とお達しがありました。私は襟の白い紺色のワンピースのようなものを着たような思い出があります。

(一) 昭和十七年甲種師範科入学、十九年九月繰り上げ卒業。

(平成十一年二月五日)

上野児童音楽学園について

谷 康 子⁽¹⁾

上野児童音楽学園ができたのは昭和八年ですね。ちょうど園田清秀氏(一九〇三〜三五)がパリで勉強して帰国され、早期教育や絶対音感の教育が必要であることをさかんに説いておられ、そうした考え方が広まってきた時代でした。同声会がこれを取り上げ実践されたことは画期的なことだったと思います。学園での指導は小澤弘、城多又兵衛、黒澤愛子先生らが中心になって行われていました。

私は本科生でしたので、教員の資格を取るためにいくつかの科目を併せて履修していました。その一つに草川宣雄先生の「音楽教授法」がありました。先生が出された『最新音楽教育学』を教科書にして、講義中心で行われていましたが、卒業間近に二回ほど児童学

園で教育実習がありました。自分で聴音の課題を作って生徒に取らせたり、歌わせたりします。教室の後ろには先生が立っていらして、子どもたちが喜んで歌うか、課題にどう取り組んでいるかなどご覧になって評価されました。私の時は、子どもたちがよくできるからと思つて用意した課題が少し難しすぎたようでした。

こうして教員免許に必要な科目の単位は取得しましたが、すぐに学校の先生になる予定もなく、そのままになっていました。ところが戦後、かなり後になってから附属高校を教えることとなり、教員免許が必要になりました。そのとき草川先生の授業や児童学園での実習の単位をとっていたおかげで、都庁に免状取得を申請しただけで条件が整いました。

本科を出て研究科に進んだ昭和十年四月から児童学園で教えることになりました。レッスンは水曜と土曜に二時間ずつあり、生徒は毎週二回レッスンを受けていました。受け持った生徒は六人で、一時間に三人の割合でレッスン時間が割り振られました。当時は本科卒業までは家で個人レッスンをしたり生徒を持つたりすることは禁止されていましたので、この人たちが私にとって初めての生徒になりました。頂いた月給は十五円だったことをよく憶えています。安い月給でしたが、生徒は熱心ですし教える方も若くて一生懸命でしたからとても楽しく、やり甲斐がありました。児童学園の尋常科三年(小学校六年生)でベートーヴェンの《月光ソナタ》全楽章を弾いた人もいます。尋常科三年とさらに高等科四年を終えて東京音楽学校に入学する人も多かったです。児童学園に通ったなかから、その後活躍した人がたくさんいます。

レッスンス室は音楽学校の教室と練習室を借用していました。小学生を電車に乗せて通わせるわけですから、最初は母親が付き添って来られるケースがほとんどでした。しかしレッスンス室に入っつしよに聞いていらつしやることは稀で、たいていは部屋の外でお待ちでした。尋常科は小学生ですから比較的家の近い人が多かったのですが、なかには鎌倉から通ってくる人もいました。でも子どもたちは楽しそうに集まってきてすぐに仲良くなっていました。

子供たちの合唱もレベルが高かったようで、東京音楽学校の定期演奏会に出演して評判になりました。なにしろ昭和十年二月にはクラウス・プリングスハイム氏の指揮によるマーラーの《第三交響曲》の初演、そして十二年六月には同じ指揮者でバッハの《マタイ受難曲》の初演に出演したのですから。子供たちのドイツ語の合唱は好評でした。昭和十五年の紀元二千六百年奉祝演奏会では《海道東征》を歌っています。

昭和十八年頃から物資の供出も行われるようになり、音楽学校はチームを供出してしまいましたから、とくに戦後の冬などは寒かったことを今でも忘れられません（戦中戦後はレッスンス室で火鉢を使い、一酸化炭素中毒で気分の悪くなる人が続出したものです）。十九年前半はまだ一般市民が空襲の脅威をそれほど身近に感じることはなく、私自身も演奏会に出たりしていましたし、生徒たちはそれまでと同じように通ってきていました。しかし戦況の激化にともない、上野公園に高射砲隊の高い塀ができ、警戒警報も頻繁に出るようになり、子供を安心して通わせられる状況ではなくなってきました。このような時勢で、児童学園は昭和十九年の夏頃、教室を神

田の分教場に移して一、二カ月続け、秋にはついに閉鎖となりました。

児童学園は子供にも、また教える側にもたいへんよいシステムだったと思います。戦後、新制大学に移行した後、附属音楽高等学校ができました。高校生は一番伸びる大切な時期ですから音楽高校でしっかり勉強するのは結構なことですが、芸大に幼児教育の場が復活しなかったのは残念に思います。

（平成十年十二月 談）

（一）昭和十年三月本科器楽部（ピアノ専修）卒。戦前の音楽学校から音楽部の時代にかけてほぼ四十七年間にわたり本学で後進の指導にあたる。昭和五十七年三月定年退官。名誉教授。上野児童音楽学園では昭和十年四月から十九年秋までピアノの指導に携わった。